三重病院ニュースレター 10 2016
NEWS LETTER vol.206

日本脳炎ワクチンの接種時期について 1ページ
[2病棟]ゆいの会 パフォーマンスショー／「やまばとギャラリー」情報コーナー／5病棟の生活のひとコマ⑰ 2ページ
三重県の事業委託を受託することになりました!!／三重病院のサラメシ④ 3ページ
「三重病院外来糖尿病教室」のご案内／外来からのお知らせ／外来診察のご案内 4ページ

日本脳炎ワクチンの接種時期について

日本脳炎ワクチンの接種時期について、皆さんご存知でしょうか?

現在、日本における日本脳炎ワクチンの1期の標準的接種時期は、「初回接種として3歳に達した時から4歳に達するまでの期間に、(以下略)。」と明記され、「ただし、定期接種の1期として接種可能な時期は生後6～90か月となっており、希望すれば生後6か月以上であればいつでも接種可能です。」とされています。これを読みますと、一般的には3歳になってから接種を開始すればいいものと受け取れます。

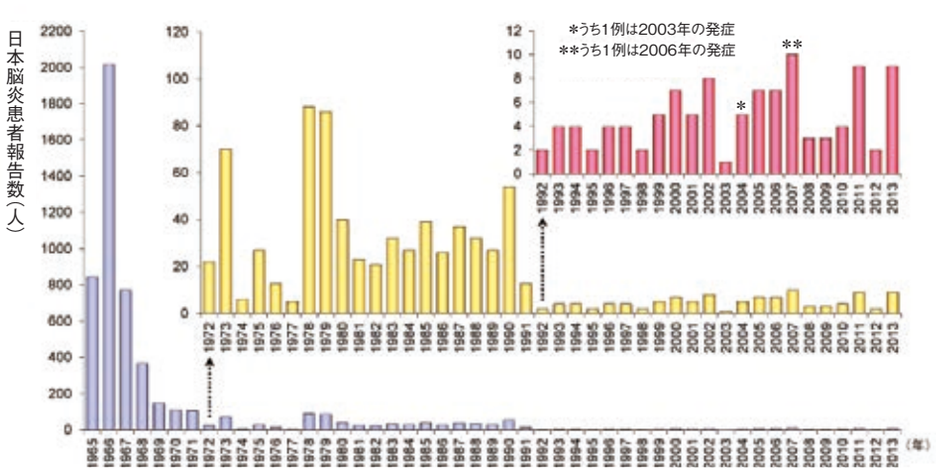
そもそも日本脳炎は、豚などの体内で増殖した日本脳炎ウイルスを吸血した蚊が、ヒトを刺すことで感染します。感染した場合、およそ1,000人に1人が日本脳炎を発症します。日本脳炎ワクチンの普及と生活環境の改善により、日本脳炎患者さんの発生は、最近少なくなっていますが(図1)、年間数例の発生がみられます。そのうち、子どもの発生状況をみますと、2006年に1例(熊本県3歳児)、2009年に2例(熊本県7歳児、高知県1歳児)、2010年に1例(山口県6歳児)、2011年に2例(沖縄県1歳児、福岡県10歳児)、2013年に1例(兵庫県5歳児)、2015年に1例(千葉県11か月児)の日本脳炎患者さんが報告されています。毎年、各都道府県で実施されている豚の抗体保有状況(どれくらい免疫があるかの調査)をみますと、日本脳炎ウイルスは西日本を中心に広い地域で確認されています。

日本脳炎を発症すると高熱、頭痛、嘔吐などがみられ、進行すると昏睡、けいれん、麻痺などが起こります。発症した患者さんの20～40%が亡くなり、生存者の45～70%に精神障害などの後遺症が残るといわれています。日本脳炎にかかる危険は、ワクチンの接種によって75～95%減らすことができると報告されています。

このように、日本脳炎を発症すると非常に重篤になることが多く、ワクチンで予防することが重要です。3歳未満の患者さんは稀ですが、日本脳炎流行地域に渡航・滞在するお子さん、最近日本脳炎患者さんが発生した地域・豚の日本脳炎抗体保有率が高い地域に居住するお子さんに対しては、生後6か月から日本脳炎ワクチンの接種を開始することが推奨されています。北海道は、平成27年度末まで、北海道内全域を「日本脳炎の予防接種を行う必要がない区域」として指定していましたが、住民が道外や海外に行き来する機会が増えていること等から、平成28年4月1日より日本脳炎を定期予防接種とすることになりました。三重県では、過去10年間で3例(いずれも60歳以上)の日本脳炎患者さんが報告されています。今後、リスクに応じて接種時期を考えていくことが必要でしょう。

(小児科医師　浅田 和豊)

図1.日本脳炎患者報告数の推移(報告年別):1965～2013年(2013年は暫定数)
[日本脳炎患者個人票(1965～1998年)及び感染症発生動向調査(1999年～)より]



国立感染症研究所ホームページより